令和７年度　第１回　廿日市市協働によるまちづくり審議会
会議要旨

１　日　　時：令和７年８月 22 日（金）　19：00～21：00
２　場　　所：廿日市市役所７階会議室
３　出席委員：12 人（50 音順）
　　石川夏香、金子史子、蒲田智美、児玉貴広、二宮理、
　　早川幸江、林田隆幸、村上恭子、森川克己、山川肖美、
　　山崎幸、吉田麗（リモート）
　欠席委員：３人
　事 務 局：地域振興部長　光井
　　地域振興課　　川崎、松島、齋藤、村山
　傍 聴 者：３人

（次第）
１　開会
２　地域振興部長挨拶
３　諮問
　（１）協働によるまちづくりの実施状況に係る総合的評価に関すること
　（２）協働によるまちづくり推進計画に関すること
４　会長挨拶
５　議事
　（議題１）協働によるまちづくりの実施状況に係る総合的評価（案）について
　（議題２）第４期協働によるまちづくり推進計画（素案）について
６　その他
７　地域振興部長挨拶
８　閉会

（配付資料）
（１）会議次第
（２）資 料 １　協働によるまちづくりの実施状況に係る総合的評価（案）
（３）資 料 ２　第４期協働によるまちづくり推進計画（素案）
（４）資 料 ３　【令和６年度】本市の取組事業の実施状況及び協働のプロセス評価一覧表
（５）資 料 ４　廿日市市まちづくり活動団体等アンケート調査報告書
（６）資 料 ５　令和６年度第３回廿日市市協働によるまちづくり審議会会議要旨
（７）資 料 ６　第１回、第２回策定委員会ニュースレター

（８）資 料 ７　職員ワーキングニュースレター
（９）資 料 ８　第３回策定委員会ニュースレター
（10）資 料 ９　第４期協働によるまちづくり推進計画策定等スケジュール（案）

１　開会

〔事務局〕

令和７年度第１回審議会を開会する。委員 15 名中 12 名の出席で過半数に達し、会議が成立している。また、協働によるまちづくり基本条例の規定により、本日の会議の内容は公開する。終了時刻は 21 時を予定している。よろしくお願いする。

はじめに、今年度の人事異動により、事務局職員が一部変わったので紹介する。

【事務局職員の紹介】

２　地域振興部長あいさつ

〔地域振興部長〕

お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。また、日頃から市の協働によるまちづくりにご協力いただき、感謝を申し上げる。

現行の協働によるまちづくり推進計画が今年度で終了するため、次の計画を策定しているところである。本日は、総合的評価と次期推進計画について、審議をいただきたいと思っている。

計画策定に伴い、審議会の開催回数も通常より多い 3 回となっている。より有用な計画を策定していきたいと思っている。専門分野や活動している分野があると思うので、忌憚のない意見をいただければと思う。

よろしくお願いする。

３　諮問

〔事務局〕

続いて、第４期協働によるまちづくり推進計画の策定に伴い、諮問を行う。都合により市長が欠席のため、地域振興部長が諮問書を読み上げ、会長に手交させていただく。

【諮問書の読み上げ・手交】

引き続いて、会長からご挨拶いただく。

4　会長あいさつ

〔会長〕

ここまでの振り返りをしっかりと行い、課題や成果について、本日議論するようになっているため、皆様と一緒に検討できればと思う。

今までの計画の延長で考えていける部分もあれば、このようなまちにしたいという議論の末、新たに加える必要がある部分も出てくると思っている。本日、総合的評価ということで振り返りも行うので、そこも大事にしたいと思う。

皆様が３年後５年後、どういう廿日市市になっていたいか、どういう生活をしていきたいかといったことを想像していただきながら、議論ができればと思っている。

本日はどうぞよろしくお願いする。

5　議事

〔事務局〕

協働によるまちづくり審議会規則の規定により、議事の進行を会長にお願いする。

〔会長〕

ここからは、私が議事を進行する。

はじめに、総合的評価案や現状の第４期推進計画の素案について事務局から説明をお願いする。

〔事務局〕

資料１（協働によるまちづくりの実施状況に係る総合的評価案）と資料２（第４期協働によるまちづくり推進計画素案）等について説明をする。

【資料１を参照しながら、主に資料２に沿って内容説明】

〔会長〕

議題１については本日の審議会で区切りをつける。承認いただけるかどうかが検討の軸となる。議題２については、議題１を受けて案として議論いただく。

まず、資料１に基づき総合的評価について、気づき等があればいただければと思う。

〔A 委員〕

資料１の３ページの総合的評価について、「市の職員が異動すると最初から説明が必要になることもあり、十分な引き継ぎが必要」と書いてあるが、当たり前のこと。

市の職員は部署が変わるので、新たな部署に行く前に引き継ぎをする。市民がわかってくれないということもわかるが、前の担当者と何回もかけて議論していることを新たな担当者が引き継ぐので、そこに齟齬が生まれるのは当然ではないかと思う。この意見は記載する必要があるか。

〔会長〕
あくまで「特性を生かしたまちづくり」についての現状分析になる。そこにふさわしいかどうかという観点になると思う。

〔事務局〕
市の職員に話し、地域の現状を理解してもらうが、その職員が異動になり、十分な引き継ぎができていないことでまた最初からとなると、なかなかその地域にあったまちづくりも進まないというご意見があったため、1つの意見として書かせていただいた。また検討をする。

〔会長〕
主語が「市民からは」となっているが、策定委員の意見ではないか。
「市民」と書いてあると広く受け取ってしまう。活動をよく知ってる市民委員が重要と言われたとなると、少し重みづけが変わってくるような気もする。

〔事務局〕
すぐに回答することが難しい。全部一度持ち帰り、修正等を検討をする。

〔会長〕
あくまでも現状分析であるため、特性を生かしたまちづくりと言うことに関して、必要な言葉か否かということで検討いただきたい。事務局と会長に一任という形で持ち帰らせていただければと思う。

〔B委員〕
「千年先も、いつくしむ。宮島」のホームページをご覧いただいたらわかるが、宮島の祭りはほとんどが厳島神社の神事に関わっており、各町内の地域の方々が様々なお祭りをされている。例えば、「たのもさん」は6世帯数しかない町内が世話している。
「千年先も、いつくしむ。宮島」は大学生が中江町で実施しているプロジェクト（船を造ったり、かざったりするもの）をメインとしていおり、「たのもさん」のように少ない町内の方が昔からの伝統で行っているものが少ししか掲載されていないのが、不思議である。学生の立場で作成されているため、そのような町のことは掲載されておらず、表向きの情報発信のみで中身がない。それをまちづくりとされると、今後自分たちの地域がどうなっていくか不安。
伝統的なことに関して、支援してもらっているのはありがたいが、そういったことを大切にしてほしいというような言葉（例：昔ながらの伝統、文化、風習などを守った上でのまちづくり）をいれてほしい。

〔事務局〕
条例の前文にそのようなことも書かれている。その部分も大切にしながら、少し加えていけたらと思う。

〔C 委員〕
２人の意見と関連して、市職員が異動すると説明が十分行き渡らないなどいろいろある。正直なところ市職員も、それぞれの地域の歴史などを踏まえた勉強が足りないんだろうと思う。職員側としては、そのような認識が本当は必要。それを学ぶ機会を提供するといったことが読み取れればよいのではないか。「千年先も、いつくしむ。宮島」のホームページも、市が業者に発注して作成してもらっている。そもそも市職員がそのようなことを理解・判断しようとする意識があればよい。一方で、大学生がそのような活動することは必要なことなんだろうと思う。そこをうまくコントロールできればよい。

〔事務局〕
職員として、現場へ行くに際した勉強や事前の下調べなどの大切さを少し加えられたらと思う。正直、勉強不足なところがあるのだろう。

〔会長〕
資料１の５ページ「人づくり」の２つめの黒丸のところについて。３行目に「市の職員のコミュニケーション能力や政策形成能力の向上等を期待する声が挙げられています」とあるが、今言っていただいたのは地域を知る、地域と信頼関係を築くといったことを期待することだろうと思う。それがなく、政策形成能力などと言われると何か違うと言われてしまうこともあるので、「地域をしっかりと知る」「地域の人と信頼を築く」といった言葉を入れてもらえたらと思う。
宮島に行くと、オリジン（起源）などを大事にして欲しいということを伺う。それは他の地域も持っていると思うので、そのような言葉が計画にしっかり入っていくようにしていければと思う。

〔D 委員〕
人権課題など新しいことに関する課題は、現状の推進計画で達成できると感じた。例えば、環境保全、伝統継承、農業、林業、巧みの技といった内容の事業が、この内容であると問題解決しないのではないかと思った。継承者がいなくて困っている事業がたくさんある。そのような方々が自分たちで発信したり、まちづくりに関わったりすることができるのか疑問に思った。

〔会長〕
こちらについては計画を考えるときに議論ができればと思う。
伝統産業の承継は、協働以外の部署で計画に書かれているのか。

〔事務局〕
産業振興関係で、後継者などについて計画されることはある。協働の計画では、その具体的な分野１つ１つの事業は掲載する形にはならない。ただ、様々な方に対する事業参画などを考えていくといった理念部分では、こちらの計画にも加えることができるのではないかと考えている。

〔会長〕
現状分析としては、このままにさせていただく。
いわゆる事業承継について、他の計画でどのように書かれているか次回話をしてもらう。他の計画でできるようであればそちらで、これでは足りない、協働という支援が必要ということであれば、また、次回、計画に入れるか否かについて、議論させていただければと思う。
この現状分析や総合的評価については、今回の審議会の議論で一区切りということだが、よろしいか。

【審議会委員　承認】

ありがとうございます。
それでは、計画の議論に移らせていただく。計画に反映していくためには、こうした現状分析が必要ということがあれば、計画の中の現状分析には反映するというようなやり方で進めさせていただく。

続いて、議題２に入る。
計画の素案については、策定委員会でも議論したと聞いている。そこでの議論を踏まえた上で、足りない点などについて自由にご意見をいただき、次回に向けての検討の材料にさせていただければと思う。

〔C 委員〕
この推進計画は、協働によるまちづくりを推進する上での基本的な考え方として、市が支援や仕組みづくりを行い、協働のまちづくりの形ができてくる、という計画ではないかと捉えている。
資料２の８ページ、９ページ「①まちづくりの拠点の体制及び環境整備」について、市職員のワーキング等で市民センターと本庁との連携が必要と書いてあるが、自分自身もすごく痛感している。地域の身近な窓口が市民センターであるという認識は

すごく大事。そこをどう計画に反映できるか、計画に記載することで、市職員が本当にそのことを感じることができるかが必要ではないか。

また、円卓会議の推進として市民のニーズに応じた支援を行うとあるが、非常に難しいと思う。浅原でも円卓会議を毎月開いていたが、参加者が少ないなど継続が難しく、中断している。記載するのはよいが、簡単な話ではないと思うため、どのようにするのか考えていかないと難しいと思った。

職員の育成といったことは端々に出ているが、条例が策定されてから 13 年ほど経っているが、依然として提唱している状態であるため、どのように進めていくのか気になった。

〔事務局〕

円卓会議については策定委員会の中でも、その言葉がわからない、やり方もよくわからないといったご意見はたくさんいただいた。

また、おっしゃられたように、条例が制定されて 13 年ほど経つ。円卓会議はもともと条例に規定されているが、あまり浸透できてない。それとは裏腹に、集まる場や意見を交わす場が必要という声はたくさんある。円卓会議の浸透には、仕掛けや努力は必要であるため、引き続き行っていく。

〔C 委員〕

仕組みをどうするかっていうのがこの議論ではないかと思った。

〔事務局〕

ぜひそういうご意見をいただければと思う。

〔事務局〕

円卓会議は、条例や逐条解説に記載があるが、課題解決のために話し合う場だけではなく、知り合うための場やそれぞれ情報を持ち寄って共有するための場などいろいろな形がある。それをどういう形で、会議するか、呼びかけを誰に、どのようにするか、記録を共有するためにどうするかということを、市民センターや市民活動センター、支所などに相談してもらい、職員としてできる部分はしないといけない。そのような形で、お互いにうまく、本当に困っているから行動しようとしている部分をどう動かすかということをやり続ければよいと思う。

こんな形も円卓会議と伝えると言葉だけが走ってしまうため、事例も含めながら、困り事や集まろうとしている理由などを、例示していけば、円卓会議にあたる会議がおそらく多くあると思う。継続となるとそれが負担となり、大変なところもあるため、いかに負担なく続けられるかなど、課題共有として、地区を超え、やり方で悩んでる人で集まる場もあってもよいと思う。そのような声を聞かせてもらいながら、市としてそのような場は作っていく必要がある。

〔E 委員〕
自分の地域では、２か月に１回開催している運営委員会で、地域振興課がＳＤＧｓのワークショップを開催し、普段は集まらない、違う部署の方々も集まった。円卓会議ではなく、市役所の方が出向き、みんなの声を聞き、少し楽しいにぎわいを持つことが１回でもあれば、市役所がしていること、市役所の方がどのようにみんなの声を聞いるのかなどがわかるので、そのような会を知ってもらえるとよい。市役所の職員が出向いて、皆様うれしそうだった。

〔B 委員〕
ワークショップと円卓会議の違いは。

〔事務局〕
言葉の捉え方は人によってそれぞれ違うが、ワークショップは話し合うための手法、円卓会議は参加者がみんな対等な立場の集まりと考えてもらったらよい。

〔B 委員〕
始めて審議会に参加するとき、辞書で調べたが協働っていう言葉の意味がわからなかった。協働とはなにかというところの説明が計画の中にあるとよい。

〔会長〕
県内の 23 市町のほとんどが、市民参画あるいは協働の条例を持っているが、市町によって市民参画や協働の定義が異なる。廿日市市は条例第２条に協働について定義されているため、条例が変更されない限りは、条例の中の定義になる。円卓会議も同じ。条例の中で円卓会議について定義されており、円卓会議という言葉が廿日市市の人たちで、区域ごとに集まる話し合いの場であるということを示している。ただ、そこがハードルや敷居が高いように見えているだろうと思う。条例の言葉を使って書いてもよいが、敷居を下げる、読む人に伝わる言葉、例を示すといったことが必要。特に円卓会議については、会議や課題解決ということでないと集まらない、集まってはいけないという認識であれば違うことを伝える必要がある。
円卓会議という言葉自体の変更も必要と思っているかもしれない。条例で定義されてはいるが、ここでいう廿日市市の円卓会議は、困ったら来ることができる、やりたいと言えば誰でもできるなどといった言葉を少し入れることはできる。皆様の議論によって、廿日市市の協働とはということは伝えることができる。そのあたりは計画に織り込んでいくことができると思う。

〔F 委員〕
策定委員会での意見がかなり反映されていることをありがたく思う。

資料２の 14 ページに成果指標として「地域主体の活動（運動会、とんど、秋祭りなど）に参加している市民の割合」とあるが、どういう意味で「参加」という言葉が使われているのか気になる。協力する形での参加なのか、それともただイベントを楽しむ参加なのか。

最近、盆踊りがあり、本当に頑張って運営してる人たちは、盆踊りとは何かということを一生懸命マイクで説明していた一方、出店に並び、食べることに一生懸命な方もいた。自分の地区では、そもそも活動自体ができなくなっている。そのような中で、参加している市民が増えるとはどういうことなのか。その活動ができるように参加する人が増えればよいのか、何かイベントを開催したら多くの人が来る参加なのか、これだけでは伝わらない。消費者としてイベントに参加するだけでは、その地域で大事にしてきた伝統行事やそこに込められた住民の思いなどは少しも伝わらない。その地域の住民が地域に愛着を持つ、行事を続けていくという気持ちには多分ならない。それをどうするかというところを指標としてわかりやすく入っている方がよいのではないか。

資料２の 15 ページの成果指標について、事務事業マネジメントシートで成果を図るということで「協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員の育成につながったと感じる事業の割合」とあるが、主語が誰か。役職が上の職員が担当者の評価をするのか、それとも担当者が地域のことをよく知ることができた、地域の人とコミュニケーションが図れたといったことを把握するのか、どちらなのか疑問に思った。

〔事務局〕

14 ページの成果指標について、参加してもらうことでつながりをつくり、その継続的なつながりの中から主体的に動いてくれる人を見つける、その最初の部分をイメージして記載しているが、次の段階もあったらよいのではと思った。

15 ページの成果指標となる事務事業マネジメントシートは、市の全職員が真剣に見るシートである。全職員が上司や部下と話をしながら、対象の事業に関してできたことにはチェックする。１枚のシートに対し、関わらない職員がいないような仕組みであるため、そのシートに協働の視点を入れることで、来年も成長していくために、協働の視点を取り入れて業務を進めていこうという意識の醸成につながると思っている。ただ、現状ではわかりにくいためもう少しわかりやすいように記載したい。

〔G 委員〕

資料２の３ページのめざすまち指標（『「廿日市市」に自分のまちとしての愛着を持っている市民の割合』）目標値の 76.7％はどういう数値か。

〔事務局〕

まちづくり市民アンケートでそのような数値を出している。

〔G 委員〕
資料２の 13 ページの成果指標「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合」はどこの数値か。

〔事務局〕
全国学力・学習状況調査に設問がある。その数値から取っている。

〔会長〕
全国学力・学習状況調査の中には、国語や数学などの学力調査の他に、子供たちの様子を聞くような設問がある。

〔G 委員〕
盆踊りは飲み食いする場じゃないといったことをおっしゃる方もいたが、そのようなことを言っていると誰も来ないため、積極的に子供たちが来ることができるよう、できるだけ人が集まるよう積極的に行動している。歴史ばかり強調すると、人が全く来ない。子供たちをできるだけ集めるような活動が大事だと思っている。参加してほしい、手伝ってほしいということは、まず人が集まり、その中から出てくれたらよいのではないかと思い、様々なイベントをしている。
資料２で朱書きされている取り組みでは、これからよい事例をどんどん入れて欲しいと思っている。
いきなり協働できる、円卓会議をするといったことは無理であるため、少しずつ誰でも参加できるような雰囲気を作ってもらいたい。
自身も新たに改築された１つの集会所については設備の補助金申請が通ったので、さらに充実するように、集まれる場になるように取り組む。残り２つの集会所も改修などのための補助金が出ないか交渉中。本庁と新しい要望について２年ほど話し合ったり、近くの造成業者と折衝するなどということをしている。大野地域は、そのようなことを区長が全部することになっている。
支所や本庁が、区長などの立場ではなく、個人でも相談できるような雰囲気になればよい。そのために協働のまちづくりがあると思う。
自分の地域で地域のこと、公共的なことをする際には必ず、区長に通すよう行政に働きかけるとともに、市にもどんな小さなことでも相談するように働きかけている。もっとコミュニケーション取るようにすればよい協働ができると思う。自分であれば、行政に地域で勝手なことをされたら意見を伝える。そのようなことも必要であるし、それに答える職員でなければならない。そのようなことが地域からもできる体制も考えなければならないと思っているため、これからも協働のまちづくりを推進してもらいたい。

〔会長〕
信頼関係を大切にという意見が出てきた。
一人ひとり思いがあると思うが、時間が迫ってきている。まだご発言いただいてない方で10月に向けて、一言でもいただけるとありがたい。

〔H委員〕
市民の協働について話し合っているが、イベントに関しても、参加する人がいないとやる意味がない。ただ、イベントが続かないと参加もできないということで、両方の立場の人がいないと成り立たない。一概に参加してくれないと成果ではないと言うのは難しい。準備には参加できないが、当日だけ頑張って参加するだけでもよいのではとも思う。運営者の立場からすると、人数が少ないので手伝ってくれたらよいのに、という思いの方が強いが、来てくれるだけでいいかというくらいの感覚で捉えていたらよいかなと思っている。
資料２の９ページ「ビジネスの手法を取り入れたまちづくり活動の推進」に、「無償ボランティア以外の運営方法に関する情報収集や提供」とあるが、以前の会議では「無償ボランティアだから気軽に参加できる、有償であれば責任感があるから行きたくない」という発言もあった。市が金銭面を支援してくれるからと思って実行したことが、逆に今まで無償だったから参加していた人の負担になるということもあるのではと思う。ゴールが見えないので、どっちつかずの答えになるのではないかと思う。何かを意見すればそれに反対する人もいるため、どこを求めればよいのか自分でも答えはわからない。

〔I委員〕
策定委員会に参加させていただき、事前に素案を読み込みをしたため、計画については特に意見はない。
この計画に基づいた具体的な計画を、それぞれの部署や課でどのように実行していくかというところを見ていかないと、この計画が生かされない。この計画がいかに実効性があるか、そこが一番大切。我々が常に行政も見ながら協働していく中で、逆に我々から提案することもあるかと思う。そういったところを注視していきたい。

〔J委員〕
資料２の９ページの「ビジネスの手法を取り入れたまちづくり活動の推進」について、コミュニティビジネスやソーシャルビジネスが何を指してるのかよくわからないので、何を推進するのかがイメージしやすいほうがよいのではないか。
市公式ＬＩＮＥの友達登録に関して、廿日市市民ではない登録者の方もいらっしゃるとは思う。また、25,000という数字が多い、少ないということもあるかと思うが、アンケートという手法の１つにもしても、興味があるから登録していると思うので、このＬＩＮＥの登録者もうまく活用できたらよいのでは。

〔会長〕
　ＬＩＮＥやＳＮＳなど、デジタルやオンラインを通したまちづくりが言葉として全然入っていない。少し広げていくのであれば、そのような視点ももう少しあってもよいのでは。
　また、皆様のご意見を伺っていると、すでにまちづくりを頑張ってる人、まちづくりをされている人たちをより積極的に応援するという協働のまちづくりはある。一方、いつの間にかまちづくりに参加していた、面白そうなイベントに参加してみたら面白い人々と出会えたなど、ハードルをかなり下げたまちづくりへの参画もある。その両者を入れるのか、それともすでに協働まちづくりを頑張ってる人をより応援するものにするかによって、書き方が随分異なってくる。皆さんのご意見は両面だと思う。
　両面で考えると、すでにやっている活動に入ってきてくださいという言い方にはなってると思うが、ハードルを下げてやっていこうという部分がまだ少ない。本当に困ってる人やまちづくり活動をやりたい人がいたときに出やすいような状況作りましょうということは書かれていない。
　協働のまちづくりが廿日市市にとってエンジンになるのか、それともインフラやセーフティネットになるのか。両者とするのであれば、エンジンの部分では本当にボランティアという言葉でよいのか、ビジネスという言葉でよいのかということを議論する必要がある。また、インフラとしての協働のまちづくりということであれば、例えば、普段家でお弁当食べてる人が外に出るということも一人暮らしの人が孤独死することを防ぐといったこともある。そのような協働のまちづくりというところも、皆様の今日の話では計画に入れるという方向性である気がする。であれば、そのような視点から中身が整ってるか、次回までに検討させていただく。また、地域を超えた協働というところがまだ出てきていない気がするため、その辺りを記載することも必要。

　議題１については、ご承認いただいたということ、議題２については継続ということで皆さんのご意見ここまでということで、事務局に進行をお返しする。

〔事務局〕
　ご審議いただきまして誠にありがとうございました。
　議題２について、いただいた意見を踏まえてしっかりブラッシュアップしていきたいと思う。

４　その他

〔事務局〕
　その他、皆さまから何かあるか。

【審議会委員から発言なし】

最後に地域振興部長からご挨拶申し上げる。

５　地域振興部長あいさつ

〔地域振興部長〕

長時間にわたり夜遅くまで本当にありがとうございました。

お忙しい中でご参加いただき、熱心に、いろいろな意見をいただき、本当に感謝する。今後、審議会が２回ある。来年以降も関わっていただきたいと思っているため、引き続きどうぞよろしくお願いする。

今日ありがとうございました。

６　閉会

〔事務局〕

以上で令和７年度第１回審議会を閉会する。本日はありがとうございました。